

『パスウェイシブ・レター』

トロント補習授業校（カナダ）

小六 岡山 凌星

（海外滞在年数約四年〇カ月）

ぼくは、一ヶ月前に現地校の授業で「ザ・コーヴ」という映画を見ました。その映画はドキュメンタリー映画で、太地という日本にある町で行われているイルカ漁業を批判する映画です。ぼくはその映画を見るまで、日本でイルカを釣っている事や食べている事を全然知りませんでした。この映画は悲しいシーンやイルカを残こくに殺しているシーンもありました。この映画を見た目的は、パスウェイシブ・レター（説得力のある手紙）を書くためです。

クラスのみんなは映画をうのみにしてしまつて、映画の主人公のようにイルカ漁業を批判する意見を授業中出していました。ぼくも、みんなの意見を聞いて、そう思いイルカ漁業

を批判する手紙を書こうと思いました。先生は生徒たちの意見を聞くのみで何もコメントをしていなかったもので、先生もイルカ漁業を批判する側に立っているのだと思いました。ぼくは、家に帰ってお母さんとその日の授業での事を話しました。するとお母さんは、ぼくに映画をうのみにせず、色々な観点から考えるようにと言いました。例えば、漁師の立場や権利について、日本の一部の地いきの食文化について、またなぜ日本人がイルカを食べてはいけなく、カナダ人がしかを食べたり、エスキモがあざらしを食べていいのかなどについて話し合いをしました。ぼくはすぐにインターネットで日本で行われているイルカ漁業について調べてみました。その結果、縄文時代から行われていて、そのけいせきがある場所が五ヶ所もありました。明治から昭和までは太地をふくむ九ヶ所で大量のイルカがイルカ追い込み方法で捕かくされピーク時には四万をこえるイルカがとられ

ていました。捕かく量は少ないけれど現在でもイルカ漁は続いている。ほとんどのイルカはイルカ肉として食用に利用され、その他は水族館でイルカショーに使われている事が分かりました。また他の国、例えばオセアニアのソロモン諸島、大西洋のフェロー諸島や南アメリカのペルーでもイルカ漁が行われているようです。ぼくはそんな昔からイルカ漁が行われていること、また、そんな食文化があることを知りおどろきました。

ぼくはと中まで書いていた手紙を全部消して、イルカ漁業を行う事は問題ないという、全く逆の内容の手紙を書き上げました。その根きよはまず、日本の食文化として一部の地いきで昔からイルカを食べていることについて、ある国の人とその文化をやめろという権利はないからです。また、イルカ漁を行って

いる漁師には生活がかかっているので、他の人が「漁をやるな」と言える立場にはないからです。最後に他のかわい動物を食べても

問題ないのにイルカは食べてはいけないとい  
う考えには説明がつかないからです。  
ぼくはイルカが好きで殺さない方がいいと  
思っているし、ぼくのクラス全員がイルカ漁  
業を批判しているので、とても書きづらかつ  
たです。また先生までも敵に回しているよう  
な気がして、手紙を先生に提出したくなかつ  
たです。  
次の日、ぼくは昨日書いた手紙を先生に提  
出しました。先生はだまって、その場で読み  
始めました。先生は、ぼくの手紙に書いた内  
容については、気にしていなさそうでした。  
先生はにっこり笑って「清書を始めて」と言  
いました。ぼくは、問題なく手紙を提出でき  
てほっとしました。この課題は、日本人であ  
るぼくにとって難しいもので色々考えさせら  
れましたが、終わってみたら気分がすっきりと  
しました。